若い世代の定住化

【経済面】

新しい中央図書館を絵本のまちの発信拠点として、若い世代が集い、知的好奇心を高め・満たしながら、にぎわいと交流を生み、子どもたちが「読む、観る、つくる」学び・体験・活動を通して成長している。

健康寿命の延伸

【社会面】

シニア世代が絵本の読み聞かせや絵本づくりなど絵本を通した子育て支援・生涯学習活動などを通して自分たちも益々元気になり、活躍している。

豊かな環境の継承

【環境面】

みどり豊かな公園内になる施設の中で絵本を身近に感じ、親しみをおぼえている。
大好きな・思い入れのある絵本がリサイクルによって大切にされている。
また、電子化によって、いつでもどこでも絵本を見て・読むことができる。

ＳＤＧｓとは、2015年に国連で採択された、世界的に取り組む「持続可能な開発目標」のことです。
17のゴールから成っており、ＳＤＧｓ達成のためには「誰一人取り残さない」理念が大切です。

ＳＤＧｓ未来都市“いたばし”将来ビジョン

絵本がつなぐ「ものづくり」と「文化」のまち
～子育てのしやすさが定住を生む教育環境都市～

絵本のまち板橋

板橋区 | Commit our Future Toward SDGs ITABASHI CITY

板橋区は持続可能な開発目標（SDGs）を支援しています。

どこでも身近に、誰もがわかりやすく理解できる「絵本」。
これまではぐくんできた絵本文化を大切に生かす
「絵本のまち“板橋”」は、
「誰一人取り残さない」ＳＤＧｓの理念に通じる
ユニバーサルで誰でも参加できる持続可能なまちづくりです。

いたばしボローニャ絵本館を併設し、
緑と文化を象徴する図書館として生まれ変わった
新しい中央図書館。
板橋区平和公園の豊かな緑に囲まれた環境の中で
「絵本のまち」を発信する拠点として展開していきます。

「絵本のまち」これまでの特徴的な取組

1981年以来、毎年、区立美術館で「ボローニャ国際絵本原画展」を開催し、絵本をアートとして採り上げる美術館として、先駆的な役割を果たしてきました。「ボローニャ国際絵本原画展」は世界の新人イラストレーターの登竜門としての役割も果たしています。

ボローニャから寄贈された絵本を中心に、世界約100か国、3万冊、70言語の絵本を所蔵する「いたばしボローニャ絵本館」では、世界の絵本を展示する「ボローニャ・ブックフェアinいたばし」や「いたばし国際絵本翻訳大賞」などのイベントを開催しています。「いたばし国際絵本翻訳大賞」は1994年から、外国の文化に触れ国際理解をはぐくむために英語とイタリア語の絵本の翻訳作品を募集するコンテストを実施しており、中学生部門も設けています。これまでに多くの受賞作品が絵本として出版されています。

区内に印刷製本業が集積しており、企業の協力を得て絵本づくりのワークショップなども開催しています。区民が絵本に親しむだけでなく、創作者活動の支援充実にも取り組んでいます。区民と創作者の視点に立った事業実施と相乗効果によって、絵本のまち“板橋”としてのブランド力向上を図っています。

区立美術館ボローニャ国際絵本原画展

いたばし国際絵本翻訳大賞受賞式

「絵本のまち」これからの発信拠点

2021年３月、新しい中央図書館が緑豊かな板橋区平和公園内で生まれ変わりました。「いたばしボローニャ絵本館」を併設し、友好都市交流協定を締結しているイタリア・ボローニャ市との友好の証として「ボローニャギャラリー」を中央に設置しています。「ボローニャギャラリー」は、ボローニャ市と共同で開催したデザインコンテストの最優秀賞作品をもとに設計しており、ユネスコ世界遺産に登録されたボローニャ市街の特徴である「ポルティコ（柱廊）」を表現しています。

平和公園内に移転改築した中央図書館

新しい中央図書館は、カフェやテラス、公園とつながる広場や外周園路などによって公園と一体化した快適な空間を提供します。ホールなども活用しながら、読み聞かせ事業や絵本展示など「絵本のまち“板橋”」の発信拠点として展開していきます。

「絵本のまち」の発信拠点である新しい中央図書館を中心に、周辺地域や商店街とも連携しながら、にぎわいと交流による「経済」効果、生涯学習と読み聞かせによるシニア活動支援など「社会」効果、公園と一体化した空間を活用した「環境」効果を創出していきます。

ボローニャ市とのコンテストで採用したデザイン（ユネスコ世界遺産に登録されたポルティコを表現）をもとに設計したボローニャギャラリー

国からＳＤＧｓ未来都市に選ばれた板橋区。
絵本がつなぐ「ものづくりと」と「文化」のまちとして、
子育てのしやすさが定住を生む教育環境都市の実現をめざし、
ＳＤＧｓをさらに推進していきます。

ＳＤＧｓ未来都市とは

国がＳＤＧｓの達成に向けて優れた取組を提案する自治体を募集・選定する制度です。板橋区は2022年度の募集に応募し、選定されました。

これまでの特徴的な取組

1993年、人と環境が共生するまちとして「エコポリス板橋」環境都市宣言を行い、エコポリスセンターや板橋清掃工場の余熱を利用した熱帯環境植物館の設置、板橋から全国に広まった緑のカーテン、友好都市である日光市の産材を活用した施設整備などに取り組み、2022年１月には、2050年にCO_2排出量実質ゼロをめざすゼロカーボンシティ表明「ゼロカーボンいたばし2050」を行いました。

これまでの取組にかかる評価

2018年12月、ポーランドのカトヴィツェで開催された国連気候変動枠組条約第24回締約国会議（COP24）に参加依頼を受け、これまでの取組と板橋区の魅力を世界へアピールしました。
また、2021年に実施された日経グローカルによるＳＤＧｓ先進度調査では、都内２位（全国９位／815市区）という高い評価を得ています。

これからの取組

板橋区の総合実施計画である「いたばし№１実現プラン2025」では、ＳＤＧｓを区政における重点戦略の柱の一つとして展開しています。未来都市に選ばれたことを契機として、絵本がつなぐ「ものづくり」と「文化」のまちとして、子育てのしやすさが定住を生む教育環境都市の実現をめざし、若い世代の定住化と健康長寿のまちづくり、未来へつなぐまちづくりをさらに推進していきます。

【経済面】

【若い世代の定住化】

ものづくりと文化・子育てが活気を生むまち

「ものづくりのまち」「絵本のまち」のブランド力が高まり、知と文化・産業の交流が盛んで、子育て・教育への相乗効果と相俟って地域経済が活性化しています。
また、駅や商店街を中心に、安心・安全で魅力とにぎわいのあるまちづくりが進展し、デジタルトランスフォーメーション（ＤＸ）によって経済活動や環境行動が促進され、若い世代の定住化が進んでいます。

＜これからの取組の方向性＞

定住と交流を促進するブランド戦略

〇30～49歳人口をメインターゲットとして戦略を展開し、人口と構成、定住の割合、住みやすい・住み続けたいと感じる区民の割合を増やします。

〇魅力ある施設やイベント、交流、経済活動などによって、20～50歳代の昼間滞在人口を増やします。

取組１：産業・絵本のまち板橋ブランディング強化

ボローニャ国際絵本原画展をはじめユニークな絵本関連の展覧会を開催する区立美術館やボローニャ絵本館を中心に、外国語絵本の蔵書、印刷製本業の集積など絵本に関する豊かな資源を活かし、絵本に親しむだけでなく、創作者を支援するなど、複合的な視点に立った取組により、絵本文化の新たなストーリーを展開していくことで、交流人口の増加や若い世代の定住化促進による地域経済の活性化をめざします。

取組２：駅・商店街を中心としたコンパクトな拠点まちづくり

板橋駅西口周辺・大山駅周辺・上板橋駅南口駅前周辺において市街地再開発事業が進み、にぎわい・交流を創出するとともに、誰もが暮らしやすく、活気にあふれた、安全で安心なまちづくりを進め、若い世代の定住化を促進します。

高島平地域では、高島平駅前に立地していた旧高島第七小学校跡地を含む周辺区有地を活用し、東洋一のマンモス団地と謳われた高島平UR賃貸住宅の団地再生と周辺公共施設の再編整備を起点に、連鎖的都市再生を進めます。にぎわい、ウェルフェア、スマートエネルギー、防災の４つをテーマに、子どもから高齢者まで安心して住み続けられるＳＤＧｓのめざす未来志向の持続可能なまちづくりを推進します。

【社会面】

【健康長寿のまちづくり】

みんなが元気で暮らしやすいまち

高齢者が就労や絵本のまちづくり・環境行動など地域貢献・社会参加を通じて活躍し、緑豊かで文化のかがやくまちを子どもたちや未来へ継承しています。

地域において住民の自主的な学習やフレイルなどが活発に展開され健康寿命が伸びているほか、医療と介護の連携が進むなど、板橋区版ＡＩＰが構築され、いつまでも住み慣れた地域で暮らすことができる安心なまちが実現しています。

＜これからの取組の方向性＞

板橋区版ＡＩＰ・ネウボラの深化

〇高齢者が生涯現役で活動したり、地域でフレイル・介護予防に取り組んだりすることによって、健康寿命の延伸をめざします。

〇高齢者をはじめ地域で支える子育て支援や、「いたばし版ネウボラ」による切れ目のない子育て支援によって、「子育てしやすい」と感じる30～49歳の増加をめざします。

取組１：シニア世代活躍とフレイル・介護予防推進

絵本の読み聞かせやフレイル予防・10の筋トレなど、シニア世代やプレシニア世代の健康づくりと生きがいづくりの取り組みが評価され、第3回「介護・高齢化対応度調査ランキング」において全国2位（都内1位）の評価を得ました。シニア世代における社会活動（趣味・ボランティア・就労など）をマッチングすることで、健康づくりに向けた行動変容を促すとともに、地域社会を支える活動の担い手づくりを進めます。

取組２：切れ目のない子育て支援の充実

認可保育所等の新設を進め定員増加を図り、待機児童の解消を図りました。また学童クラブ機能と放課後対策機能を併せ持つ「あいキッズ」事業により、学童クラブ待機児童ゼロを実現しています。これらの成果を受け、「共働き子育てしやすい街ランキング2021」（日経×woman実施）東京23区で首位、東京都内で3位、全国で11位の評価を得ています。

2022年４月に児童相談所機能と子ども家庭支援センター機能を併せ持つ施設として「板橋区子ども家庭総合支援センター」が開設しました。総合支援センターの開設を契機に、妊娠・出産期からの成育歴の把握、成長段階に応じた関係機関等との連携などを強化し、基礎的自治体のメリットを最大限に生かした切れ目のない子育て支援の充実を図ります。

ISCF

2022年に開設した板橋区子ども家庭総合支援センター（ISCF）

（Itabashi Support center for Children and Families）

水と緑を生かし安心・安全で住み続けられるまち

水と緑やきれいな空気に囲まれ、生物の多様性が保全されるなど、人と環境が共生するまち「エコポリス板橋」及び2050年ゼロカーボンシティの実現に向けて、区民や事業者・団体などの地域の各主体が「オール板橋」で協働・連携しています。

また、安全面や快適性などにも配慮しながら、情緒あるまちなみと公園や美しい景観を緑でつなぎ、未来へつなぐまちづくりが地域で進んでいます。

＜これからの取組の方向性＞

自然と文化にあふれる公園・学校を軸としたまちづくり

〇ゼロカーボンシティ実現に向けた取組の加速によって、温室効果ガスを2013年度比で30%削減します。

〇緑豊かで子育てしやすい環境整備、公園や学校を中心としたまちづくりを進め、30～49歳の自然環境・公園に対する満足度を高めます。

取組１：ゼロカーボンシティ実現重点施策の推進

「SDGs先進度調査」（日経グローカル実施）において、全国総合9位、東京都内2位の評価を受けている板橋区。人と環境が共生する都市「エコポリス板橋」環境都市宣言、2022年１月に表明した「ゼロカーボンいたばし2050」の実現に向け、区施設等から排出されるCO_2削減をめざします。また、日常的なマイボトルの活用とワンウェイプラスチックの削減を促進します。

取組２：魅力ある学校・公園等まちづくりの推進

魅力ある学校・公園等まちづくりを推進するため、区では公園と一体的に公共施設を整備しています。特に中央図書館のリニューアルでは、緑豊かな平和公園と「絵本のまち」を象徴する中央図書館を一体的に整備することで、まちや地域の価値向上につなげています。また、赤塚公園に隣接する区立美術館のリニューアルにおいて、BELCA賞（ベストリフォーム部門）を受賞するほか、これまでの公園を中心とした施設整備における取組が評価された結果、2022年度ファシリティマネジメント大賞（JAFMA賞）を受賞しています。

2020年にリニューアルオープンした「板橋こども動物園」では、動物とのふれあい・生物多様性を学ぶ機会を創出するため、子どもたちによる飼育ボランティアを実施するなど、「SDGｓ体現施設」として子育てしやすいまちとしての魅力を高めています。また、学校施設を計画的に改築・改修し、ユニバーサルデザインを採用した良好な学習環境を整備するとともに、ゼロカーボンシティ表明を具体化する取組として、学校施設のLED化改修を進めます。

こども動物園で行っている飼育ボランティアの様子